



わきやあまみ第9弾 「生物多様性って? ～奄美群島からみてみよう～」

最近「生物多様性」という言葉をよく耳にするようになりました。そこで、豊かな自然が広がる奄美群島を例に示しながら、生物多様性について分かりやすく解説した冊子を作成しました。なんとなくむずかしそうに感じられる生物多様性について関心をもつきっかけにできれば、たいへんうれしく思います。配布は4月以降に行う予定です。楽しみにお待ち下さい。



表紙



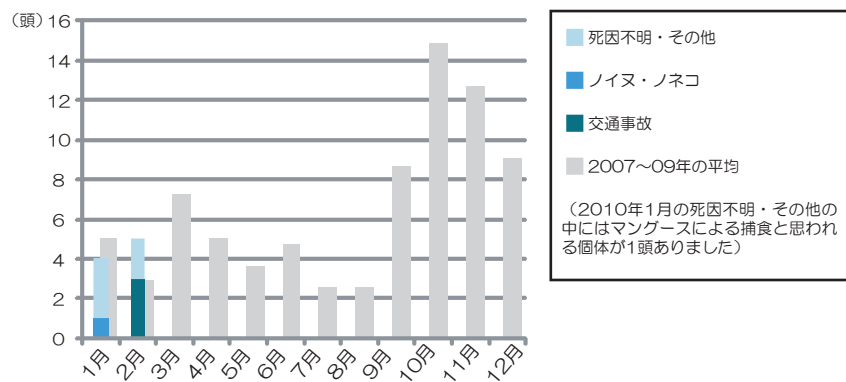
裏表紙



※A4サイズの全20ページです。



アマミノクロウサギ死体確認数



2010年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因

アマミノクロウサギのために、 あなたができること

安全運転

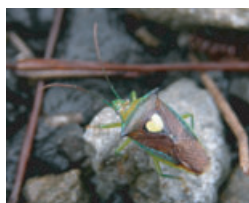
林道では、20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

最後まで責任を持って飼いましょう。

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。

生きものおもしろ写真館



エサキモンキツノカメムシ
背中のハートマークがなんとも愛らしいカメムシです。しかしなぜ、ハートマークなのでしょう？動物の体の模様や色は、捕食者などに見つからないための保護色になっていたりします。このハートにはどんな効果があるのでしょうか。

編集後記



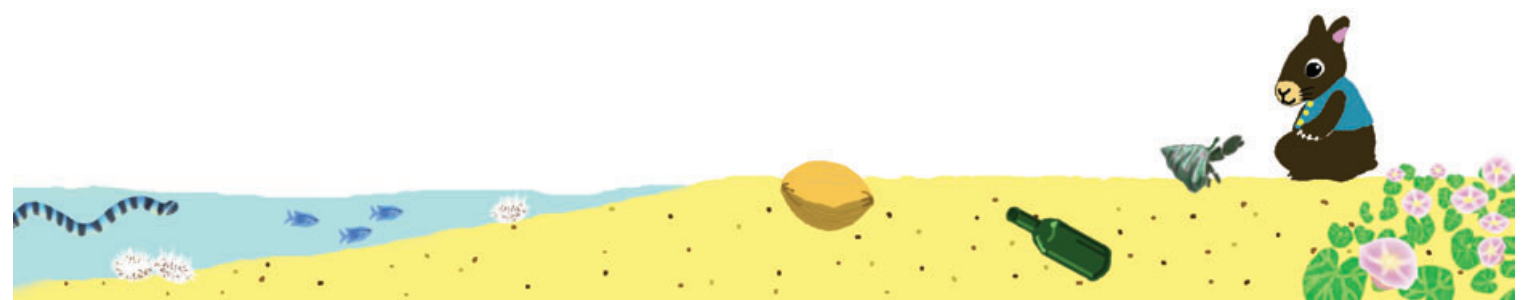
新しい年度が始まります。人との別れや新しい出会いがあり、少し慌ただしくなる時期です。この時期になると、自分の卒業式を思い出し「贈る言葉」を口ずさみながら、少し涙ぐんでしまうのは私だけでしょうか…。



今年は早い春が来たなと思ったら寒さが戻ってきた今日この頃です。温度差が激しいと体調が崩れやすくなりますね。みなさま気をつけて下さい。

さて、冬から春にかけては夜中に干潮時の潮位がマイナスになります。そのため奄美では昔からイザリ（夜漁）が行われてきました。夜の海に点々と浮かび上がるガスランプの明かりは幻想的だそうです。一度は行ってみたいのですが、ケンムンに化かされた…という話を聞くと、少し怖い気がします。与論ではイシャトゥと呼ばれる妖怪がイザリをするそうで、人を化かすというより人を襲うそうです。かなり怖い。春は昼間に潮位がマイナスになるので、三月の節句など行事の時に潮干狩りが行われることもあります。潮干狩りはほんとに楽しいですよ。今からワクワクします。

これから季節は暖くなり、海開きもうすぐです。外に出て過ごしやすい奄美の短い春を堪能してはいかがでしょうか。（吉田）



奄美の冬・春の動植物



リュウキュウバライチゴ

本州・四国・九州以南に分布。低地～山地の日当たりのよい林縁や原野に生える落葉小低木。茎や枝には刺が散生している。



タチツボスミレ

日本各地に分布。低地～山地の日当たりのよい路傍に生える多年生草本。葉は長さ約2cmの卵型。



オオシマカクムネベニボタル

奄美大島・沖縄島に分布。外敵に襲われると後脚の腿節から悪臭のする液を分泌して、捕食されるのを回避している。



ハロウエルアマガエル

喜界島・奄美大島・徳之島・与論島・沖縄島に分布。木の上や草むらで生活しているので姿を見つけない。3～8月が繁殖期。

参考文献 琉球狐 野山の花（南方新社 写真と文：片野田逸郎 監修：大野照良）
野に咲く花（山と溪谷社 監修：林弥栄 写真：平野隆久）
沖縄昆虫野外観察図鑑（沖縄出版 編著：東清二）
原色日本甲虫図鑑Ⅲ（保育社 編著：黒澤良彦/久松定成/佐々治寛之）

今季の一枚 「オオトラツグミ」

奄美大島だけに生息しています。数が少なくなかなか姿を見ることはできません。

3～4月の繁殖期、夜明け前に「キョローン」とすんだ声でさえずります。

毎年3月にNPO法人奄美野鳥の会がオオトラツグミー斉調査を行っています。長年の調査の結果、個体数が増加傾向にあるとわかりました。しかし、個体数は依然として少なく希少な鳥だということは変わりません。奄美大島の森でいつまでも美しいすんださえずりが聞けるように、オオトラツグミの住む森を守っていかなくてはなりません。



いきもののいる風景 ～ 水辺から ～

みなさんの身近にある池や川にはどんないきものがいますか？ いきもののいる風景から奄美の自然を見つめてみましょう。



リュウキュウツバメ

奄美大島より南の島々にいるツバメはリュウキュウツバメという種で、渡りをすることなく一年中同じ場所に住んでいます。素早く飛び、空中で器用に昆虫をつかまえて食べます。水辺には昆虫が多いため、河川の上空などではリュウキュウツバメが集団で飛び姿をよく見かけます。

ヨシ・ヒメガマなど

河川などに生えます。魚の産卵や生育の場になったり、鳥のエサ場や生活の場になったりと、生きものたちにとって重要な場所を提供しています。

バン

黒っぽく小太りで、くちばしの赤と黄色の配色が鮮やかな鳥です。河川や池などで、水面を泳いだり水草の上を歩いたりする姿をよく見かけます。水辺に巣を作って子育てをします。卵からかえったヒナは、すぐに親鳥のあとについて泳いだり歩いたりするようになります。

ボタンウキクサ

観賞用に持ち込まれた外来生物です。在来生物に悪影響を及ぼすとして、特定外来生物に指定されています。繁殖力が強くあつという間に水面を覆い尽くしてしまいます。

コガモ

カモの仲間のほとんどは、冬になると北の方から渡ってきます。コガモは日本に渡ってくるカモの中で最も小さい種類です。赤褐色の頭と目の後ろの緑色の模様が特徴的ですが、このような色をしているのはオスだけで、メスはもっと地味な色をしています。

シリケンイモリ

奄美大島と沖縄諸島に分布しています。徳之島と奄美大島は動物相が似ていますが、不思議なことに徳之島にはシリケンイモリはいないそうです。

オキナワスジゲンゴロウ

屋久島以南の南西諸島に分布しています。休耕田や水草が茂った池や沼に生息します。しかし、水辺環境の消失によって生存が危ぶまれています。

コイ

ペットなどで持ち込まれた外来生物です。雑食でなんでも食べてしまいます。また、汚い水でも生きることができる適応力があります。